

第 115 期 報告書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

堀田丸正株式会社

証券コード：8105

ごあいさつ



代表取締役社長 **大西雅美**

投資家の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、所得から支出への前向きな循環メカニズムが働き、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり緩やかな回復基調で推移いたしました。通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行きなど海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響により依然として不透明な状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループは、コア事業である意匠捺染事業へ継続的に経営資源を集中すると同時に、将来の成長戦略推進のための基盤づくりをテーマとして、抜本的な構造改革を進めました。和装事業及び寝装事業においては、事業所を統廃合し、洋装事業においては、販売員契約の見直し等でのコスト削減を推し進めました。

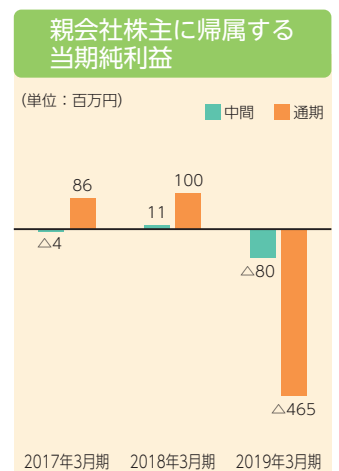
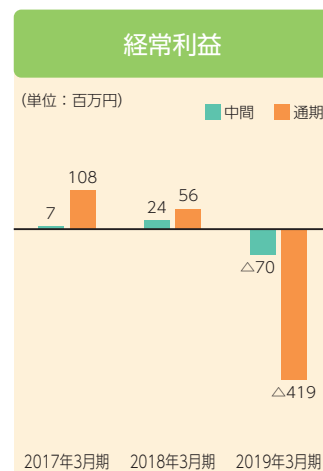
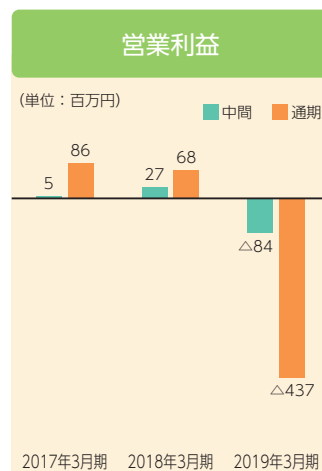
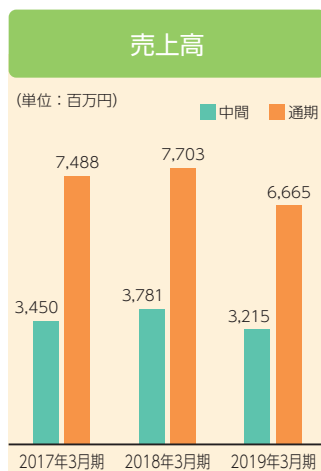
これらの結果、固定資産売却による特別利益の計上はあったものの、収益性低下による棚卸資産の評価損の計上、ブランド事業の廃止による特別損失の計上があり、売上高は66億65百万円（前期比13.5%減）、営業損失は4億37百万円（前期は営業利益68百万円）、経常損失は4億19百万円（前期は経常利益56百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は4億65百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益1億円）となりました。

このような状況のもとにあって当社グループは、「意匠捺染事業の海外展開強化」「洋装事業の飛躍的な収益改善」「事業領域の拡大」「事業ポートフォリオの再編」を推進することにより、経営基盤の更なる安定に向けて鋭意努力してまいります。

投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年6月

業績ハイライト



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当連結会計 年度末 2019年3月31日	前連結会計 年度末 2018年3月31日
流動資産	5,442	5,829
固定資産	279	531
資産合計	5,722	6,360
流動負債	1,430	1,571
固定負債	50	38
負債合計	1,481	1,610
純資産合計	4,241	4,750
負債・純資産合計	5,722	6,360

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当連結会計年度 2018年4月1日～ 2019年3月31日	前連結会計年度 2017年4月1日～ 2018年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	134	△480
投資活動によるキャッシュ・フロー	228	521
財務活動によるキャッシュ・フロー	△24	1,547
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	1
現金及び現金同等物の増減額	332	1,588
現金及び現金同等物の期首残高	2,076	488
現金及び現金同等物の期末残高	2,409	2,076

セグメント情報

意匠燃糸事業

売上高
セグメント別
売上高比率

2,124 百万円
31.9 %



意匠燃糸事業は、海外事業が中国アパレルからの受注増に加えて、欧米、日本からの受注増で増収増益を達成し、日本事業も堅調に推移いたしました。しかしながらOEM事業が国内アパレルからの大幅受注減により、減収減益となりました。この結果、売上高21億24百万円（前期比2.4%減）、営業利益は1億49百万円（前期比14.0%減）となりました。

和装事業

売上高
セグメント別
売上高比率

1,483 百万円
22.2 %



和装事業は、新たな販売機会の創出のため、リサイクル企画催事の取り組みを始め、専門店取引も堅調に推移しましたが、百貨店取引は売上減少傾向に加え、子会社(株)吉利に

洋装事業

売上高
セグメント別
売上高比率

2,483 百万円
37.3 %



洋装事業は、アパレル事業におきまして、前年下期より開始いたしました西日本の百貨店における人材投入型の催事業が拡大し、増収増益となりました。九州地区を主力とする丸福事業はミス・ベビー、子供服が売上減少傾向となり、減益となりました。馬里邑事業は、百貨店の施策上による店舗撤退や不採算店舗の

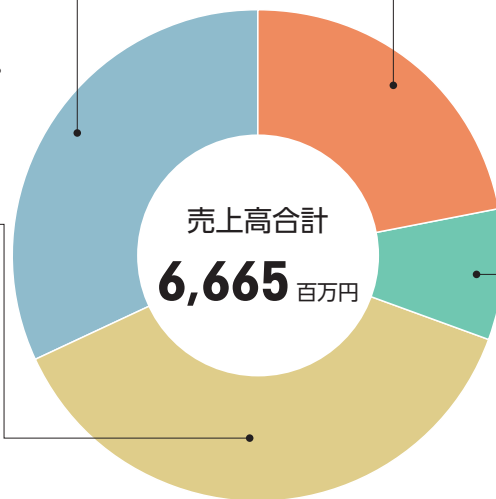
見直しに加え、専門店取引における契約の見直しと与信管理の徹底により、売上高は大幅に減少いたしました。このような中、取引先の減少に合わせた仕入抑制や、業務フロー及び百貨店販売業務契約の見直しによるコスト削減など、将来の成長戦略推進のための抜本的な構造改革を行いました。収益性低下による棚卸資産の評価損の計上により営業損失を計上しました。この結果、売上高24億83百万円（前期比18.7%減）、営業損失は4億11百万円（前期は営業利益1億16百万円）となりました。

寝装事業

売上高
セグメント別
売上高比率

573 百万円
8.6 %

寝装事業は、マットレス事業が積極的な取引先提案の継続実施により復調し、東北地区におけるギフト事業が伸長したことに加えて、組織体制の見直しと事業所の縮小によるコスト削減などが営業利益に大きく反映いたしました。この結果、売上高5億73百万円（前期比0.4%増）、営業利益は35百万円（前期比48.1%増）となりました。



トピックス

当社グループ堀田(上海)貿易有限公司 「第33回スピンエキスポ上海」に出展

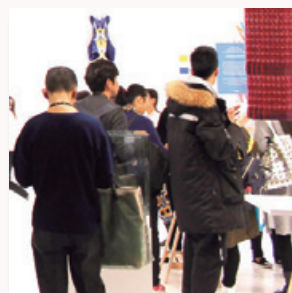
2019年3月5日～7日、堀田(上海)貿易有限公司は世界的な糸の展示会である「第33回スピンエキスポ上海」(上海世博覧会場で開催)に出展いたしました。

同社は第1回目より連続出展しており、今回はファッション性の高い糸や上質な糸に加え、医療用や靴など資材用途向けの提案が目立っていました。中国を中心に日本・韓国などアジア、ヨーロッパ、北アメリカなど世界各国から、3日間累計で11,371人ものお客様が訪れました。

同社の提案は、2020年春夏素材のストレッチ素材や細番手のハイゲージ素材に加え、UVカット・接触冷感等の機能性素材や、リサイクル・オーガニック等の環境配慮型素材を中心にを行いました。

ほかにも同社の素材を使って、(株)島精機製作所の無縫製編織を導入している中国メーカーと組み、製品サンプルの提案を行いました。

中国ブランド市場は、差別化された素材を求める傾向が一層強まっており、同社は、MADE IN JAPANの繊細なハイゲージのストレッチやファンシー素材、和紙を使った素材などを中国ブランドを中心に提案し、同社製品の魅力を伝えることができました。



洋装事業の「百貨店催事企画」の展開

当社の洋装事業は、2017年12月より開始した「百貨店催事企画」を、西日本を拠点とする百貨店(阪急阪神百貨店7店舗、ほか地方百貨店、広島福屋・須磨大丸・下関大丸などの常設店)にて、年間を通じて展開いたしました。

月に1週間日程で7～10か所で展開し、洋装事業の売上に大きく貢献いたしました。今後は、①売上効率の一層の向上、②JR隣接の大手百貨店への販売強化、③常設店の売上安定化と店舗の拡大、④直口座切替えによる利益率・回収率の向上、⑤オリジナル企画の展開を通じた新規百貨店の開拓、に注力して展開していく予定です。



子会社(株)吉利が和装用ひざサポーター「ころりん ひざまもり」を販売開始

当社の子会社(株)吉利は、和装用ひざサポーター「ころりん ひざまもり」を、サポーターメーカー(株)D&Mと共同開発し、2019年4月より、北関東を中心とした専門店と全国チェーンの量販店の一部において販売開始いたしました。

和装を楽しむすべての方が、より長い時間を和装と共に過ごすことを想い、熟練の職人の手によって、一点一点丁寧に生み出されました。特長は、

- ① 三角形を組み合わせたメッシュパッドでひざにかかる力を分散。
- ② ころんとした立体構造のパッドで正座・ひざ立ちでもずれにくい。
- ③ メッシュ生地・パッドで蒸れにくく薄型で目立ちにくい。にあります。

今後も和装領域における新たな需要創造を図るため、お客様の潜在ニーズを的確に察知した商品開発を進めてまいります。



「和装リサイクル催事企画」の取り組みを開始

当社の和装事業は、国内リサイクル会社と提携した「リサイクル催事企画」を、2019年1月より、西日本を中心とした大手百貨店の催事場にて開始いたしました。

当企画の主旨は、使用済みの着物や帯等に補正・洗濯等を施したリユース品を販売することでの、取扱い高のアップ、滞留在庫消化の促進、新規取引先の開拓にあります。

既存百貨店では呉服催事の縮小や中止が相次いでおりますが、今後は国内リサイクル会社との共同開催によるスケールメリットを活かし、更なる規模の拡大を目指して展開していく予定です。



●会社概要 (2019年3月31日現在)

会 社 名	堀田丸正株式会社
本 社 所 在 地	東京都中央区日本橋室町4丁目1番11号 TEL03-3548-8121 (代表)
設 立	1933年2月 (創業1861年)
上 場	1974年4月 (東京証券取引所 証券コード:8105)
代 表 者	代表取締役社長 大西 雅美
事 業 内 容	和装品、宝飾品、和装小物等の卸売販売、 婦人洋品等の製造・卸売販売、寝装品等の 卸売販売及び意匠燃糸の製造・卸売販売、 横ニットの企画・卸売販売
従 業 員 数	連結 123名 単体 99名
資 本 金	2,937百万円
決 算 期	3月31日
売 上 高	2019年3月期 連結6,665百万円 (決算短信 発表数値)

●株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	60,000千株
発行済株式の総数	59,640千株 (自己株式3,395千株含む)
株 主 数	10,510名

●大株主 (上位10名) の状況 (2019年3月31日現在)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
RIZAPグループ株式会社	35,000	62.23
株式会社ヤマノホールディングス	1,937	3.44
松井証券株式会社	336	0.60
楽天証券株式会社	322	0.57
マネックス証券株式会社	253	0.45
株式会社ヤマノネットワーク	230	0.41
柳 谷 和 夫	222	0.40
山野愛子どろんこ美容株式会社	179	0.32
和 田 修	174	0.31
飛 田 常 司	167	0.30

(注) 1. 当社は、自己株式を3,395,825株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

●役員一覧 (2019年3月31日現在)

代表取締役社長	大 西 雅 美
取 締 役	井 上 徳 彦
社 外 取 締 役	小 島 茂
社 外 取 締 役	大 塚 一 暁
常 勤 監 査 役	丹 下 勝 視
社 外 監 査 役	水 野 孝 平
社 外 監 査 役	金 子 茂 男

●株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年6月に開催いたします。
基 準 日	毎年次のとおりといたします。 定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公 告して定めた日
公 告 方 法	電子公告により、当社のホームページに掲載 いたします。 公告掲載アドレス http://www.pearly-marusho.co.jp/ ただし、電子公告による公告ができない場合 は、日本経済新聞に掲載して行います。
株 主 名 簿 管 理 人 及 び 特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株 主 名 簿 管 理 人 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵 便 物 送 付 先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	☎0120-782-031